釧路市教育委員会　令和６年第３回２月定例会会議録

１　日時：令和６年２月１５日（木）１３時３０分から１５時００分まで
２　会場：釧路フィッシャーマンズワーフＭＯＯ　２階　教育委員会室
３　出席者
　　岡部義孝教育長
（教育委員）
　　山口隆委員、小出美貴子委員、籾山彩子委員、大山稔彦委員
（事務局）
　　齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、森学校教育部次長、大島総務課長、西崎施設計画主幹、齊藤総括指導主事、外崎青少年育成センター所長、小西教育政策主幹、及川北陽高校事務長、澤口生涯学習部次長、松本博物館長、塩田美術館長、乙黒スポーツ課長、石川学芸主幹、鈴木動物園長、北村阿寒生涯学習課長、長谷地音別生涯学習課長、関本指導主事、二瓶課長補佐
４　議事録署名人　　山口委員　大山委員
５　傍聴人数　　０人
６　提出案件
【公開案件】
議案第５号　釧路市立幼稚園規則の一部を改正する規則
議案第６号　釧路市立認定こども園条例の施行等に関する規則の一部を改正する規則

報告事項
（１）釧路市立小中学校及び義務教育学校の長期休業日の日程について
（２）釧路市立博物館と田川市石炭・歴史博物館との友好館協定締結について
（３）学校の現状について

７　会議内容

【公開案件】
　議案第５号　釧路市立幼稚園規則の一部を改正する規則
　議案第６号　釧路市立認定こども園条例の施行等に関する規則の一部を改正する規則

（森学校教育部次長）
　議案第５号、釧路市幼稚園規則の一部改正について説明する。
　改正の内容については、釧路市立幼稚園規則における、夏季休業日及び冬季休業日の総日数の延長となる。
　釧路市立学校管理規則の一部改正の内容に合わせて、夏季休業日と冬季休業日の総日数をこれまでの５０日以内から５６日以内に改正を行うものである。こちらの改正については令和６年４月１日施行となる。
　続いて議案第６号、釧路市立認定こども園条例の施行等に関する規則の一部改正について説明する。
　改正の内容については、釧路市立認定こども園条例の施行等に関する規則における、夏季休業日及び冬季休業日の総日数の延長と、特別保育料の規定に係る別表で引用している法律施行令の一部改正に伴う引用条項の整備の２点となる。
　まず、夏季休業日と冬季休業日の総日数の延長について。内容については、釧路市立学校管理規則の一部改正の内容に合わせて、夏季休業日と冬季休業日の総日数をこれまでの５０日以内から５６日以内に改正を行うものである。こちらの改正については令和６年４月１日施行となる。
　次に、特別保育料の規定に係る別表の引用条項の整備について。別表で引用している「中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律施行令」の一部改正に伴い、引用条項の整備を行うものである。こちらの改正については施行令の施行日に合わせ、令和６年３月１日施行となる。

◎特に意見はなく、本議案は、原案のとおり承認された

【公開案件】報告事項
　（１）釧路市立小中学校及び義務教育学校の長期休業日の日程について

（森学校教育部次長）
　報告事項１、釧路市立小中学校及び義務教育学校の長期休業日の日程ついて報告する。
　１月定例教育委員会にて学校管理規則の改正について説明した際に、学校管理規則では総日数を５６日とするが、実際の運営については釧路市小中学校校長会が調整している旨、報告した。

この度、釧路市小中学校校校長会より、令和６年度の長期休業期間を決定した旨、報告があった。夏季休業日と冬季休業日について、総日数は現行の５０日を変えずに、夏季休業を３０日、冬季休業を２０日とした。校長会が夏季休業日を３０日としたのは、授業時数の確保や年間行事の影響を及ぼさないこと、長期休暇中は子どもたちの起床・就寝などの生活リズムや学習習慣が乱れることが多いため、夏休み終了後にそれらの回復に大きく影響しない日数として３０日が適当であると判断したためと聞いている。

また学年始休業日の延長については、令和５年度までは４月１日から４月５日までと規定としていたが、学年始の準備期間を十分に確保し、新学期準備等の充実を図るため、令和６年４月１日施行日として、学校管理規則を４月１日から４月７日までと改正した。

その結果、資料２で記載の通り、始業式は４月８日、夏休は７月２７日～８月２５日、冬休みは、１２月２６日～１月１４日となった。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

【公開案件】報告事項

（２）釧路市立博物館と田川市石炭・歴史博物館との友好館協定締結について

（松本博物館長）

報告事項２、釧路市立博物館と田川市石炭・歴史博物館との友好館協定締結について報告する。

釧路市立博物館は、１月３１日、福岡県田川市の「田川市石炭・歴史博物館」と友好館協定を締結した。

釧路市立博物館と田川市石炭・歴史博物館は、以前から、「炭鉱」という共通の歴史を持つ地域の博物館として研究及び人的な交流があったが、田川市石炭・歴史博物館が、平成２８年に新平溪煤礦博物園區と友好館協定を締結していたこともあり、釧路市立博物館と新平溪煤礦博物園區との友好館協定締結を機に、３館の連携強化に向け、友好館協定の締結に至ったところである。締結式には、新平溪煤礦博物園區のギョウ館長もオンラインで出席し、釧路市立博物館と田川市石炭・歴史博物館の連携強化はもとより、３館の連携強化を確認したところである。

今後においては、「３館トライアングル協定」として、これまで以上に研究、人的交流を深め、お互いの地域の炭鉱の歴史文化を紹介する展示なども積極的に行い、歴史文化を素材とした観光のＰＲなど情報の発信に努めていきたいと考えている。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

【公開案件】報告事項

（３）学校の現状について

（本川教育指導参事）

報告事項３、学校の現状について報告する。

２月３日、コーチャンフォー文化ホールにおいて教育講演会を開催した。講師に文部科学省初等中等教育局学校デジタル化プロジェクトチームリーダーの武藤久慶氏をお迎えし、ＧＩＧＡスクール構想の今後の行方や令和の教育の在り方等について、９０分間にわたり貴重な講演を頂いた。

２月６日には、元教育大学釧路校教授で現在長崎大学教授の中村典生氏をお招きして、小中英語教育連携セミナーを開催した。こちらも多数の小中学校の先生方の参加を得て、英語教育を中心に小中連携のあるべき姿を学ぶことができた。

２月８日、９日には、特別研修講座「教科調査官と学ぶ算数・数学科の授業の在り方」と題して、文部科学省の算数・数学教科調査官２名をはじめ、日数教の会長など５名の算数数学教育の第一人者を招聘し、幣舞中学校と鳥取西中学校で授業研究を行った。その中で市教委では初めての試みとして、赤本純基指導主事も幣舞中学校の人学級をお借りし、授業を行った。特に赤本指導主事の授業は、まさしく今求められている子供が主役となる授業で、釧路市が目指している授業のすがたを体現した形であり、５名の助言者の皆さんからも、全国レベルというより全国トップレベルの授業だと絶賛を頂いた。

この３つの事業では、立て続けに全国レベルのそれぞれのスペシャリストを招聘して最新の情報を得ることができ、参加者にとっては充実の機会であったことは間違いない。しかし、課題としては、これらのせっかくの機会で得たものを、目に見える「結果」「成果」に結びつける必要があると改めて捉えているところである。

１２月に実施した釧路市標準学力検査の結果については、後ほど担当から報告させていただく。

学校の危機管理については、このところ毎月校長会議にて啓発を行っているところであるが、依然、一歩間違えると重大インシデントにつながりかねないことも散見されることから、再三にわたって管理職のみならず職員全体で危機管理意識の高揚を図るよう、各学校長に対して強く指導したところである。

この度導入された校務支援システムについては、４月からの本格稼働に向けて、市教委の研修に加え、各学校で２月、３月の間に試行錯誤を繰り替えしてシステムに慣れ親しむよう、校長会でお願いしたところである。

先日報道でも話題になった大谷翔平選手からのグローブが、市内の全小学校にも無事届いたが、今度はバスケットのレバンガ北海道とよつ葉乳業によるＳＤＧｓプロジェクトの「ＬＥＶＡＮＧＡ　ＡＣＴＩＯＮ」で、市内の全小学校にバスケットボール４個ずつが寄贈されることになった。令和３年度から行っているもので、釧路管内では弟子屈町に続いて２番目に釧路市が選定された。２７日にはレバンガとよつ葉乳業、それぞれの担当者とキャラクターが来て、代表として大楽毛小学校で贈呈式を行う他、他の小学校にも速やかに配布する予定となっている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

（籾山委員）

中学校の数学の課題について、1点教えていただきたい。全国平均を超えている中学校は、組織として授業改善に取り組んでいると思うが、具体的にどういったことをしているのか教えていただきたい。

（本川教育指導参事）

他の教科にも共通していることであるが、全国平均を超える、超えないということも含めて、授業改善が進んでいる学校と、苦戦している学校があるのはご承知の通りである。一体としてというのは、特定の先生だけが頑張っているが、全員が同じ方向に向き切れていない学校があるのも事実である。その中で成果を出している学校というのは、リーダーがいることの他、一つの方向をみて全職員が同じような姿勢で授業改善に向かう意識が熱量として表れており、一定の成果が出ている。数学科の何人かの先生のみが必死に授業改善を行っていて全員で取り組めていない学校もある。成果が上がっている学校は数学のみならず、他の教科でも同じような形で授業改善に取り組んでいるため、成果があがっているのだと捉えている。

（籾山委員）

教科調査官の方と意見交換をした中で、中学校の数学に大きな課題として、つまずいて置き去りにされている生徒が出てしまうという問題について、どのように感じていたか。

（本川教育指導参事）

その部分に関しては、全体の協議会ではないところで調査官５名に、小中の実態としてここ数年、小学校では一定の成果を上げて右肩上がりになっているが、中学校に入った途端に低迷することが繰り返されており、その理由について問いかけた。釧路市に限ったことではなく、中学校は教科の専門家が教えているため、それが逆に仇となり、わからない子の気持ちや、つまずいている部分が見過ごしがちになっているのではないかとの指摘を受けた。小学校は基本的に全教科を担任が教えているため、それぞれの教科のスペシャリストではないが、その分丁寧に子供に寄り添って、わからない子の気持ちを先生が理解しやすいことがある。一方、中学校の先生は専門家であるがゆえに、このようなことも理解できないのかというのが念頭にあることが大きな原因なのではないかと指摘された旨、中学校の校長先生にお伝えした。

（山口委員）

調査官のご意見として、中学校はプロフェッショナルが自分の教科を教えているため、わからない子供の気持ちをくみ上げることが苦手であり、これは釧路市に限ったことではなく、全国的にそういった傾向があるということでよいか。

（本川教育指導参事）

道内、また全国でも、中学校の方が小学校より伸びている市町村もあるため、一概にそう

とは言えない。小学校では良いが、同じ子供が中学校入学後にガタっと下がる傾向の市町村が全国にもあり、因果関係は明確に調査していないとは思うが、そういうことが大きな要因の一つではないかと言われている。すべて全国に当てはまるということではないと思う。

（山口委員）

釧路市の中学校の先生方に、非常に大きな課題であると受けとめていただきたい。

（本川教育指導参事）

釧路市の中学校の先生でも、わからない声や躓きに寄り添って授業を行っている先生もおり、逆に小学校の先生で寄り添うことができていない先生がいるのも事実である。そのため、本件については大まかな一般論と捉えているため、各中学校で認識を持って欲しいとお伝えした。

（大山委員）

校長先生の意識の問題が大きいと今回思った。４人の授業者の先生には大変頑張っていただき、本当に良い授業をしていただいたが、参加者名簿を見たときに、ある大規模校の中学校は参加者が１名で、さらに１日目の午後しか出席していないことが分かった。この中学校は少なくとも教員が何人いるのか、釧路の課題は何だということを理解しているのか。その学校から、なぜ参加者が少なかったのかについては聞いているか。

（本川教育指導参事）

個々には確認していないが、多くの先生を代理にできないという回答が来るのではないかと予想している。しかしそれを言ってしまうと研修も研究も進まない。そのような学校体制を変革し、校長の意識を変えて参加させるというところは、私たちにも責任があるため、参加体制の活性化に向けて今後強く呼び掛けていきたいと思う。

（大山委員）

去年も同じような状況であったため難しいことは理解しているが、続けていかなければいつまでも中学校の先生の意識は変わらない。良い機会であるため、校長会でまたこの話をしていただければと思う。

（山口委員）

非常に素晴らしい取り組みだと感じている。課題の４点について、まさにその通りだと思うため、課題解決に向けて今後力を入れてほしい。釧路市内で参加された先生、参加が少なかった学校に関連して、今回管内の先生が参加していた状況を見て、どのような働きかけをして、どのような反応があったのかが気になる。今後期待することは、釧路市と釧路管内の先生方の交流、研修機会の共有を広げていくことである。管内の先生へどのような働きかけをしたのか、反応がどうであったかを教えていただきたい。

（本川教育指導参事）

数学の調査官をお招きした件については、特別研修講座に位置付け、従来の研修講座の一環として設定したものである。研修講座については、釧路教育研究所を通して管内各町村の全学校に案内しており、今回、管内の町村立学校から参加があった。他の講座についても、釧路市以外の先生が参加されることはある。良いものについては釧路全体の教育力を上げる

という視点で考えており、管内の先生の中にはやがて釧路市に来る方もいるため、管内で可能な範囲で協力していきたいと思っている。

（小出委員）

数学の公開授業を見た感想で、どの授業も先生たちが一生懸命で丁寧で、生徒もわからない時にはわからないと言っており、普段からの先生と生徒の信頼関係が築かれていることがわかる授業であった。生徒もしっかり先生の答えに反応しており、いい授業を見させていただいた。先生の授業も素晴らしかったが、子供たちも素晴らしいと思った。他の中学校の授業は見られていないが、先生と生徒の信頼関係は授業する上での一番基礎であると感じたため、他の学校の先生たちにも、授業のスキルもそうであるが、そういうところも気をつけて授業をしていただきたいと思った。どこの学校も子供達は素直で挨拶も上手であったため、先生の働きかけ次第かと感じている。

（本川教育指導参事）

お褒めの言葉を頂戴したが、全ての学校、全ての学級でそうなっているわけではないという事実があるため、今の様な関係性が釧路市内のすべての先生、全ての学級で構築できるようにしていく。

（岡部教育長）

赤本指導主事はそこの学校の子供たちを全員知らない状態であった。授業５分前に子供たちに会って授業を展開し、子供たちが食いつくような魅力的な授業をしている様子を見て、授業改善の必要性を改めて考えさせられた。

（本川教育指導参事）

その部分は、先日、大館の授業マイスターが来た時も同じことがいえると思う。大館の授業マイスターも１時間で、芦野小学校の児童が自分の学級の児童のような雰囲気になっていた。今回の赤本指導主事も５分前に会って、毎日自分が教えている生徒のような関係性を築いており、小出委員がおっしゃったように、学校の先生は日常的に信頼関係の構築に努めなくてはならないが、やる気になれば短時間でもある程度できるということであるため、その部分も指導力と捉えて引き続き情報提供と指導を行っていきたいと考えている。

（山口委員）

いままで指導主事が学校訪問、校内研修に行き、その学校の先生の授業を見て、授業に対する指導助言を行ってきた。そのスタイルが定着していると思うが、逆に、赤本指導主事だけではなく、他の指導主事も含めて授業を行い、見せたうえで意見交換をするというスタイルはどうか。例えば、赤本指導主事は数学であるが、その学校で数学の授業を見せ、他の教科の先生も交えて、今の授業はどうであったかと指導する、指導助言の一つのスタイルとして、今後研究する価値はあるのではないかと思う。

（本川教育指導参事）

その点については、すでに次年度の方策の一つとして十分視野に入れ、検討の段階に入っているため、期待していただいてよろしいかと思う。

（岡部教育長）

そのような展開をしていかなくては、いつまでも改善されない中学校がある。ただ授業を見せるだけでは、見に来ない人がいる。いつ、どの公開研究会に行っても、来るメンバーはだいたい同じ。授業改善に思いを持っている先生方は毎度集まる。何とかして我々が見たことのない先生たちに刺激を与えなければ、中学校がいつまでも変わらないため、取組を進めていく。